

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
ECC国際外語専門学校		昭和59年2月20日	大谷内 圭		〒 530-0015 大阪府大阪市北区中崎西2-1-6 (住所) 06-6311-1446 (電話)		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人山口学園		昭和58年11月22日	酒元 英二		〒 530-0015 大阪府大阪市北区中崎西2-3-35 (住所) 06-6366-1440 (電話)		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	語学ビジネス専門課程	エアライン学科	平成17(2005)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	<p>本学は学校教育法及び教育基本法に基づき、語学ビジネス専門教育を通じて、実社会に有用な人材の育成を目的とする。以て国際間の人々の交流と相互理解を促進し、世界の文化向上とその恒久平和樹立に寄与したい。</p>						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	<p>①エアライン業界・企業出身の講師・専門家による理論と実学教育を通じて、最先端の情報と技術を提供することにより業界や企業が求める即戦力を伴った人材養成教育を行う。 ②授業で得た知識・技能を空港・企業(航空会社等)などの現場で実践することにより、接客・接客実戦(経験)力を高める教育を行う。 ③専門知識・技能を証明する資格(マナー・プロトコール検定・中国語検定・ハングル能力検定・普通救命講習修了資格・サービス接客検定)取得教育を行う。 ④英語能力を磨き外国人のお客様とのコミュニケーション能力を高める実用英語教育を行う。</p>						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位数、単位いずれかに記入 1,710 単位数	1,710 単位数	90 単位数	単位数	単位数	単位数
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率			
96人	19人	0人	0%	15%			
就職等の状況	■卒業者数(O)		14人				
	■就職希望者数(D)		11人				
	■就職者数(E)		11人				
	■地元就職者数(F)		5人				
	■就職率(E/D)		100%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		45%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		79%				
	■進学者数		0人				
	■その他						
	3名						
(令和6年度卒業者にに関する令和7年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等		(令和6年度卒業生) 日本航空、スカイマーク、JALスカイエアポート沖縄、スターフライヤー、ホテルモントレ、インターコンチネンタルホテル大阪、INGNI、トラベレックスジャパン					
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 一般社団法人専門職高等教育保証機構 受審年月: 令和4年2月1日 評価結果を掲載したホームページURL https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/</p>						
当該学科のホームページURL	https://kokusai.ecc.ac.jp/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位数による算定)						
	総授業時数		1,800 単位数				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位数					
うち企業等と連携した演習の授業時数		90 単位数					
うち必修授業時数		1,710 単位数					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位数					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		90 単位数					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位数					
(B: 単位数による算定)							
総単位数		単位数					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位数					
うち企業等と連携した演習の単位数		単位数					
うち必修単位数		単位数					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位数					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位数					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位数					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等に於いてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		3人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人				
	計		3人				
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		1人					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

グローバルな視野と高いコミュニケーション力を有し、エアライン業界で求められている知識と、ホスピタリティーを実践することができる人財育成の為、エアライン学科エアラインコース教育課程編成委員として業界、企業等の役職員を選出し、企業等の様々な意見や要望などを十分に活かしながら、実践的かつ専門的そして、先駆的な職業教育モデルを構築し、中核的専門人材の養成教育を展開する。年2回の教育課程編成委員会では以下の事項について協議をし、各授業科目の改善や工夫等に活用、反映する。

教育課程編成委員会での協議内容

1. 年2回実施する、学生アンケート結果や授業内容・進路内容・学校生活等の情報をもとに授業内容・学習成果・進路成果を分析し、改善策を協議する。
2. 就職先企業に卒業生の就労状況のヒアリング、企業・業界からの新たなニーズや要望等、職業人として必要な要素や課題の情報収集を行い、改善策を協議する。また、企業研修(インターンシップ)の事前教育、研修期間中、事後教育における企業との連携・調整の改善をおこなう。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

エアライン学科エアラインコースでは、エアライン接客技術、ビジネススキル、英語運用能力、マナー、ホスピタリティー精神の修得に知見を有する企業、団体等との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を適切かつ円滑に行う為の組織として学内に教育課程編成委員会を置く。

以下の①～④の流れに沿って編成委員会において、教育課程の改善を図る。

- ① 教務課: 教育に関する現状分析と課題をまとめ③の教育課程編成委員会に資料提出する。
- ② 進路指導課: 進路指導に関する現状分析と課題をまとめ③の教育課程編成委員会に資料提出する。
- ③ 教育課程編成委員会: 教務課・進路指導課からの課題を受け、企業・業界の立場から改善策の協議と提案を行う。
- ④ 学内カリキュラム編成委員会: エアライン学科エアラインコース教育課程編成委員会での協議内容に基づき、改善策の審議を経て、最終的には学校長が実施可否を決定する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
明石 伸子	特定非営利活動法人 日本マナー・プロトコール協会 理事長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
今井 翔太	スカイマーク株式会社組織・人づくり推進室 室長 兼 人事部採用課 課長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
中井 智子	株式会社JALスカイ大阪空港オペレーション部キャリア開発グループ グループ長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
大谷内 圭	ECC国際外語専門学校 学校長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
東井 喜美	ECC国際外語専門学校 副校長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
杉田 典彦	ECC国際外語専門学校 キャリアセンター責任者	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
榎原 悠祐	ECC国際外語専門学校 教務課責任者	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
南條 祐麻	ECC国際外語専門学校 入試課責任者	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
奥 大輔	ECC国際外語専門学校 教務課	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
久保 友嗣	ECC国際外語専門学校 教務課	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—
林 智美	ECC国際外語専門学校 専任教員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (7月～8月、2月～3月)

(開催日時(実績))

- 第1回 令和6年7月31日 10:00～12:00
第2回 令和7年3月10日 13:00～15:00
第1回 令和7年7月31日 11:00～13:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

接客サービスだけでなく保安業務が主な職務となることを理解することが重要との意見をいただき、後期授業内の「CA応用」の授業において、保安業務に関する内容の説明を重点的に強化した。業界では人事移動もあることから、CA・GS職に限らず柔軟な視野が求められるのご意見もいただき、「社会時事」の授業内の地域創生プランニングを通じて、営業職や企画提案力の強化を図った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

1. 企業等との連携による実習・演習等の目的

- ・業界の実態を理解するために仕組み、内容、最新情報・技術を学生に授業を通じて提供する。
- ・業界での現場体験することにより、接客実戦(経験)力を高める。企業等と連携して実習・演習を行う。

2. 企業等との連携による実習・演習等の運営

- ・企業等との連携による実習・演習等は本校教員と企業等から派遣された担当者が共同して実施する場合と、企業等から提供されたカリキュラム及び教材をもとに本校教員が授業を実施する場合がある。
- ・実施された実習・演習等については教務責任者、コース担任及び教育課程編成委員会にて内容を検証し改善を図る。

3. 企業等との連携による実習・演習等の評価

- ・本校教員と企業担当者が共同して実施する場合は、授業の成果に対して企業担当者の評価を基に本校教員が成績評価を行う。
- ・カリキュラム等を提供されて実施する場合は、企業等の成績評価規程に従って本校教員が成績評価を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

授業計画に基づいた事前打ち合わせを実施、授業内容の詳細・評価方法について定める。
 現役の客室乗務員やグランドスタッフより、機内での安全確保とサービスや空港地上での搭乗手続きや案内などの業務について教授を受け、現場でのリアルを学ぶ。また、企業と連携をした地域の子どもたちへの社会貢献プログラム提供を通じて、チームビルディングやサービス実践力の向上を図る。
 評価に関しては、連携授業後の振り返り時の企業フィードバックと学習内容、気づき等をまとめたレポートを企業担当講師と学内授業担当者が協議し、科目の課題点として評価する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
GSスタディ応用ⅠB	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	グランドスタッフの知識や現場でのスキルを学び、就職後に即戦力として求められる対応力や業務実践力の習得を目指す。	株式会社Kスカイ
CAスタディ応用ⅠB	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	航空会社の客室乗務員として求められる知識やスキルを学び、現場での対応力や業務実践力を身につけることを目的とする。	スカイマーク株式会社
エアラインリサーチⅠA	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	航空業界の構造や、飛行機を運航させるために関わる多様な職種とその業務内容について理解を深めることを目的とする。	スカイマーク株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「教務規約第35条」に定められている通り、以下の基本方針を定めている。
 1. 推薦学科の教員に対する研修・研究の目的
 教員の質を一定以上に保つことと技術の向上のために、業界で使用されている標準技術、最新技術等を教員が直接企業等から学ぶ研修と、教授技術等の教育に関わる研修を毎年度それぞれ1回以上実施する。
 2. 推薦学科の教員に対する研修・研究の運営
 研修については講師を本校に迎え入れて教員全員が同時に受講する全体研修と、一部の教員が参加する外部研修を適時組み合わせ実施する。一部の教員が参加する外部研修については、その研修内容について報告会を実施するなどして教員全体へその情報を伝える。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	客室乗務員が「本当に」実践するコミュニケーションセミナー ～チームが活性化する多様な個性や意見の引き出し方とは～	連携企業等: 日本航空株式会社
期間:	令和6年7月24日	対象: 専任教員
内容:	チーム力を向上させるための心理的安全性やコミュニケーションに関する講話を中心に、客室乗務員が実践していることへの知見を深める。	
研修名:	インフィニ講師養成講座	連携企業等: 株式会社インフィニトラベルインフォメーション
期間:	令和7年2月26日～28日	対象: 専任教員
内容:	インフィニ検定の指導インストラクターを養成する知識とシステム運用スキル向上の講座	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	Hyper-QU結果の活用研修	連携企業等: (株)図書文化社
期間:	令和6年5月2日	対象: 教職員
内容:	休退学防止の一環として取り組んでいるQUアンケートについて、学生対応・組織作りに関する課題を可視化し、改善するしくみを学びます。	
研修名:	心のサポーター養成研修	連携企業等: 大阪市こころの健康センター
期間:	令和6年11月11日	対象: 教職員
内容:	心の不調に気づき、適切に対応できることを目的にこころの病気の疫学、こころの病気からの回復、メンタルヘルスファーストエイドについて学び、聴くワークを通して、実践的なスキルを身につける。	

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	マナー・プロトコール指導者向け研修	連携企業等: 日本マナー・プロトコール協会
期間:	令和7年7月6日	対象: 専任教員
内容:	挨拶や立ち居振る舞いなど基本的なマナーの再確認と国際儀礼(プロトコール)の基礎知識を学び、文化的多様性に配慮しながら、生徒に模範を示し効果的に指導するための方法や姿勢を身につける。	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	Hyper-QUアンケート結果の活用研修	連携企業等: (株)図書文化社
期間:	令和7年5月21日	対象: 教職員
内容:	同社が提供するHyper-QUアンケートの分析結果によるクラスや学生の状況を把握し、組織作りに関する課題を可視化。クラスを改善するしくみや課題別学生指導や対応方法について学ぶ。	
研修名:	配慮が必要な学生を支える授業マネジメント	連携企業等: 特定非営利活動法人 キッズレクリエーションクラブ
期間:	令和7年7月28日	対象: 教職員
内容:	配慮を必要とする学生の特性や状況を理解し、必要な支援を見極めながら、個々の特徴に応じた柔軟な対応と授業方法の工夫を学び、学生の主体性や学習意欲を高める関わり方について学ぶ。	
研修名:	教育現場の安心と信頼を守るコンプライアンス研修	連携企業等: 鳩谷・別城・山浦法律事務所
期間:	令和8年3月10日	対象: 教職員
内容:	学生と教員の立場を踏まえた適切な接し方や指導法を学び、パワハラ・アカハラ的具体例を通じて線引きと未然防止策を理解し、信頼関係構築に必要な対話力や相談対応力の向上を図る。	

(別途、以下の資料を提出)
 * 研修等に係る諸規程
 * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
 * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の「学校評価実施規定」に学校関係者評価について以下のように定めている。

(学校関係者評価)

第11条 校長は自己評価の結果を本校の関係者により組織した学校関係者評価委員会(以下「関係者委員会」という。)に報告し、意見を聴き、その意見を尊重し、教育活動及び学校運営に活用しなければならない。

(関係者委員会の構成)

第12条 関係者委員会は、次に掲げる区分から校長が委託する委員により構成する。

(1) 関連業界等関係者 2名以上 (2) 卒業生 1名 (3) 保護者または地域関係者 1名 (4) その他校長が必要と認める者1名
2 委員の任期は、2年とする。ただし再任を妨げない。

(関係者委員会の運営)

第13条 関係者委員会に委員長を置く。

2 関係者委員会は、校長が招集し、委員長がその運営にあたる。

3 校長が必要と認める場合は、関係者委員会に委員以外の者の出席を求めることができる。

4 関係者委員会は、委員の過半数が出席しなければ開会することができない。

5 関係者委員会は、自己評価の進捗状況に応じ次年度の計画策定までの間に開催しなければならない。

(報酬及び費用弁償)

第14条 関係者委員会の報酬及び費用弁償については、本校が定める基準により支払う。

(学校関係者評価の評価結果)

第15条 委員長は、関係者委員会による評価結果をまとめ、報告書を作成しなければならない。

(学校関係者評価の活用)

第16条 教職員は、学校関係者評価の結果を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めなければならない。

(学校関係者評価結果の報告)

第17条 校長は、学校関係者評価結果を理事会に報告しなければならない。

(学校関係者評価結果の公表)

第18条 校長は学校関係者評価結果について公表しなければならない。

(その他)

第19条 本規定に定めるもののほか本校の学校評価に関し必要な事項は、校長が別に定める。

本校ではこの「学校評価実施規定」に則り、年間1～2回、学校関係者評価委員会を開催、学園ホームページ上に公開している。

(2) 専修学校における学校評価ガイドラインの項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> 学校の理念・目的・育人人材像は定められているか 学校における職業教育の特色は何か 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか 学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか 各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 目的等に沿った運営方針が策定されているか 運営方針に沿った事業計画が策定されているか 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか 人事、給与に関する規定等は整備されているか 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか 授業評価の実施・評価体制はあるか 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか 職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> 就職率の向上が図られているか 資格取得率の向上が図られているか 退学率の低減が図られているか 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> 進路・就職に関する支援体制は整備されているか 学生相談に関する体制は整備されているか 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか 学生の健康管理を担う組織体制はあるか 課外活動に対する支援体制は整備されているか 学生の生活環境への支援は行われているか 保護者と適切に連携しているか 卒業生への支援体制はあるか 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> 学生募集活動は、適正に行われているか 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 財務について会計監査が適正に行われているか 財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか 自己評価結果を公開しているか

(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか 留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学修成果に関しては、教務課とキャリアセンターで連携と目標共有の仕組み強化が必要とのご意見を受け、学生が学期ごとに作成する目標設定シートを両部署で共有し、定期的に会議を開催して指導方法や体制を協議している。職業観の醸成が課題となる語学系コースについては、柔軟な目標設定に加え、インターンシップ等の職業体験機会を企業と連携して検討を進めている。さらに、保護者委員からの提案を踏まえ、就職活動の進捗共有や保護者間交流の場として、保護者面談会時に茶話会を実施することとした。今後も、委員からいただいた提案や助言を教育活動に積極的に反映させ、学生・保護者・卒業生それぞれにとって実態に即した、より充実した学校運営を推進していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年9月1日現在			
名前	所属	任期	種別
五十嵐 駿太	株式会社 With The World 代表取締役社長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
國府 昭義	三井不動産 リゾートマネジメント株式会社 HOTEL THE MITSUI KYOTO 副総支配人/人材開発部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
中上 隆雄	済美地域社会福祉協議会 会長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	地域委員
貴治 康夫	高等学校教員	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	高校教員
荒木 駿汰	卒業生	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生
小笠原 梨乃	卒業生	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	卒業生
高田 由紀子	保護者	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報紙等の刊行物・その他())

URL: <https://kokusai.ecc.ac.jp/>

公表時期: 令和7年7月31日

(別途、以下の資料を提出)

- * 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- * 自己評価結果公開資料
- * 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では、文部科学省生涯学習政策局が平成25年3月に発表した「専修学校における学校評価ガイドライン」附属資料5「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨および取組に当たっての視点、情報提供の内容・方法に則り、本校が設定する項目について本校及び学園のホームページ上で広く一般に公開するものとする。連携および協力する企業等の学校関係者に対してもホームページ上で公開している情報を提供するとともに、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会等の委員会を通じて本校の教育活動その他の学校運営の状況について理解を深めていただくものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色、校長名、所在地、連絡先、学校の沿革、歴史、その他の諸活動に関する計画 例: 学校安全・保健対策等
(2) 各学科等の教育	入学に関する受け入れ方針及び入学数、収容定員、在学学生数、カリキュラム(科目記当表(科目編成・授業時数)、時間割、使用する教材など授業方法及び内容、年間の授業計画進級・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・終了の認定基準等)、学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定、資格取得、検定試験合格等の実績卒業生数、卒業後の進路(進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先)
(3) 教職員	教職員数(職名別) 教職員の組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、実習・実技等の取り組み状況、就職支援等への取り組み支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動等)
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い(金額、納入時期)活用できる経済的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免等の案内等)
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果、評価結果を踏まえた改善策
(10) 国際連携の状況	留学生の受入れ・派遣状況、外国の学校等との交流状況
(11) その他	学則、学校運営の状況に関するその他の情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報紙等の刊行物・その他())

URL: <https://kokusai.ecc.ac.jp/about/self-evaluation/>

公表時期: 令和7年7月31日

(別途、以下の資料を提出)

- * 情報提供している資料(備考)
- ・用紙の大きさは、日本産業規格A4とする(別紙様式1-2、2-1、2-2、3-1、3-2、4、5、6、7、8について同じ。)

授業科目等の概要

(語学ビジネス専門課程 エアライン学科)																			
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携			
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任				
	○			エアラインサーチⅠA	航空業界全般の基礎知識、及び客室乗務員とグラウンドスタッフの業務について学びます。航空輸送の歴史と現状について理解を深め、フルサービスキャリアやローコストキャリアといった各航空会社の特徴を学びます。航空業界の使命や航空保安についての学びを通し、航空業界で働くことの意義を考え、就職活動に活かします。	1/前	30	2		○		○					○		
	○			CA・GSガイド基礎ⅠA	客室乗務員とグラウンドスタッフの業務について学びます。座学に加えロールプレイングを多く取り入れそれぞれの業務の知識やスキルを習得します。	1/前	30	2		○		○						○	
	○			SPI対策(エアライン)ⅠA	航空会社の就職筆記試験において出題頻度の高い数学の問題を選出し解き方や考え方を指導します。SPI対策としても役立つ授業です。	1/前	30	2	○			○						○	
	○			キャリアデザイン基礎ⅠA	エアライン就職とはどのようなものか基礎を学びます。また航空業界で求められる人材について考察します。	1/前	30	2	○			○							
	○			ホスピタリティコミュニケーションⅠA	言葉遣いや立ち居振る舞いといった航空業界を目指す人としての「内面」を磨く学習です。	1/前	30	2	○			○							
	○			プレゼンテーション(AL)ⅠA	自分の主張や考えを的確に、効率よく、好感をもって相手に伝えられるよう、話の道筋を確立させる「話法」を学習します。人前で自信を持って「説得力」と「影響力」のあるプレゼンテーションができる力を習得します。	1/前	30	2	○			○						○	
	○			インフィニ検定対策ⅠA	航空会社の予約管理システム端末の操作技能習得を通し、航空会社間の予約規則等航空業界の基礎知識を得る。操作実習を通し、都市コード、空港コードを始めとする航空業界、旅行業界に必要な知識を身に付ける。	1/前	30	2	○			○							
	○			サービス接客検定対策(3級)ⅠA	お客様に満足いただける「ホスピタリティマインド」を知識と技術の双方の面から学ぶ。前期の検定取得目標は3級です。当のサービスや接客について理解をもち、基本的な接客サービスを行うのに必要な知識・技能を身につけるように学習します。また、コミュニケーションの基本や言葉の大切さを学び、体現できるようにします。	1/前	30	2	○			○							
	○			Weekly English Goals ElementaryⅠA	GRIT(やり抜く力)を身に付け、英語学習に生かします。その週の学習ポイントと目標達成までの進捗状況を担当講師と確認します。毎日の学習状況を細かく記録し、学習成果を高めるレッスンです。勉強方法のTipsを学びオンライン問題に挑戦し、自律した学習者になる為の習慣作りを行います。	1/前	30	2	○			○							○
	○			Weekly English Goals Pre-IntermediateⅠA	GRIT(やり抜く力)を身に付け、英語学習に生かします。その週の学習ポイントと目標達成までの進捗状況を担当講師と確認します。毎日の学習状況を細かく記録し、学習成果を高めるレッスンです。勉強方法のTipsを学びオンライン問題に挑戦し、自律した学習者になる為の習慣作りを行います。	1/前	30	2	○			○						○	
	○			Weekly English Goals IntermediateⅠA	GRIT(やり抜く力)を身に付け、英語学習に生かします。その週の学習ポイントと目標達成までの進捗状況を担当講師と確認します。毎日の学習状況を細かく記録し、学習成果を高めるレッスンです。勉強方法のTipsを学びオンライン問題に挑戦し、自律した学習者になる為の習慣作りを行います。	1/前	30	2	○			○						○	
	○			Writing to Explore International Culture 1 Advanced 1ⅠA	自国の文化と異文化をトピックに、毎回異なるライティングスタイルでまとめた量の英文を書き、発表します。授業は週2回行い、毎週2回目の授業には留学生が参加し、留学生は自国の文化について説明をします。	1/前	30	2	○			○						○	
	○			Writing to Explore International Culture 1 Advanced 2ⅠA	自国の文化と異文化をトピックに、毎回異なるライティングスタイルでまとめた量の英文を書き、発表します。授業は週2回行い、毎週2回目の授業には留学生が参加し、留学生は自国の文化について説明をします。	1/前	30	2	○			○						○	
	○			Practical Grammar ElementaryⅠA	中学3年程度までの英文法を完璧に理解し、英作文や会話で自分の表現として使えることを目指します。問題を解く形式で文法への理解を深めます。正しい答えを選ぶだけでなく、なぜ他の選択肢がダメなのかを自身で説明できるようにまで理解できることを目指します。	1/前	60	4	○			○						○	
	○			Practical Grammar Pre-IntermediateⅠA	読解力の向上と要約力の習得を目指し、社会的な内容の英文を読み、文章の展開パターンを理解し、内容理解を行います。語彙の強化も行います。	1/前	60	4	○			○						○	
	○			Practical Grammar IntermediateⅠA	英文法を基礎からしっかりとやり直し、深く理解することによって、英語の土台を築いていきます。英文の仕組みが分かれば、会話や読解にも応用が効きます。	1/前	60	4	○			○						○	
	○			World Voices Advanced 1ⅠA	This class is a listening-focused class where students practice listening to second-language English speakers from around the world as well as practice fluency points from native speakers. Listening activities are supplemented with readings about international topics, research, and informal class presentations.	1/前	60	4	○			○						○	
	○			World Voices Advanced 2ⅠA	This class is a listening-focused class where students practice listening to second-language English speakers from around the world as well as practice fluency points from native speakers. Listening activities are supplemented with readings about international topics, research, and informal class presentations.	1/前	60	4	○			○						○	

